



大明小学校

校長室から

令和元年11月19日

No. 42

文責 校長 飯久保一男

日本が誇れること

昨日、私が読み聞かせをする機会があり、3年2組に行かせてもらいました。普通、読み聞かせといえば、物語などを読んで聞かせるのだと思いますが、私は「**それって日本と逆!? 文化のちがい 習慣のちがい**」という6冊シリーズの本を紹介し、その中の日本と外国の文化や習慣の違いを何点か話しました。国際理解教育の一つでもあります。日本のよさを感じてもらえたかな? なんて勝手に思っています。授業ではありませんが、私にとっては楽しい時間でした。

前号で書かせていただいた「色彩感覚」のほかにも、日本が世界に誇れることを子どもたちに伝えていきたいと思っています。紙面のスペースの関係で、少しのことしか紹介できませんが…。

先週、本校の児童会がアフリカ救援米を集める取り組みを行いました。食糧難の国、財政難の国、平和が保たれていない国…、さまざまな国がある中で、日本で生活している私たちは、とても恵まれています。加えて、人権が尊重されるなど、いろいろな制度に守られて、平和で、安心して過ごすことができていることに感謝をしなければならないと思います。



アフリカのある国では「水が透明であることを知らない」子どもたちがいるそうです。水道水がそのまま飲める国はごくわずかです。4年生は上水道から下水道まで、水について学習しました。水に関わって働く人々の努力や苦勞などを学びました。そのおかげで、日本中どこの蛇口からも衛生的で安全な水が出てきて、誰も危険性を感じずに、手を洗い、水を飲んでいるのです。

この水道水のように、私たちにとっては当たり前のことで、それが誇れることだと気づかないことがたくさんあります。しかし、そこには必ずそれを支える人々の努力や苦勞があるのです。そんな日本のよさを少しだけ紹介します。家庭でも話題にしたり、折に触れて教えたりしていただけたらと思います。

その1 時間に正確。電車やバスが時間通り。

このことは No.37「時間を守る取り組み」にも書きました。定刻より20秒早く出発し、誰からも文句は出ていないのにホームページにお詫び文を掲載した鉄道会社があり、世界でも話題になりました。他の先進国でさえ10～15分の遅れが出ると遅延としているとのことですが、日本ではどの鉄道会社でも1分の遅れを遅延としています。これを支える人々がどのくらいの人数いるのでしょうか。自分の国の鉄道の管理も日本の会社にやってほしいという外国の人がいました。ただ、日本の会社が管理したとしても、そこで働くのは日本人でなくてはダメだろうと言っていました。日本人の生真面目さ、勤勉さ、仕事の正確さを物語ります。



つくばエクスプレス新型車両

その2 治安がいい。

殺人事件の発生率はアメリカの4.8%に比べて、日本は0.4%、事件の解決率はアメリカの68.3%に比べて、日本は95.9%と、日本の治安のよさが数字となって出ています。日本の警察は世界一といわれます。女性が、夜一人で歩けますし、野菜などの無人販売所のものをお金を払わずに持って行く人はいません。食事の場所などのイスの確保をバッグや上着ですることがありますが、海外ではその際に持って行かれてしまうそうです。テーブルに携帯電話を置いてトイレに行っても、戻ってくればちゃんとあります。修学旅行で財布を置き忘れる子どもがときどきいますが、かなりの確率で戻ってきます。警察の力もさることながら、人々のきまりやルールを守る態度、平和を大切にしている姿勢が表れていると感じます。



野菜の無人販売所

その3 マナーを守る。順番を守る。

「日本人はなぜ行列に、きちんと順序を守って並ぶことができるのか？」という内容を「所さんのニッポンの出番」という番組が扱っていました。日本人であれば常識ですが、海外では「並ぶ」という概念がありません。



海外の学校では、子どもに「背の順に並ぶ」「整列する」ということをあまり教えません。日本人のこの姿は「理想像」だと外国の方が言っているのを見たことがあります。割り込みが横行している国では、前の人との距離を少しでもあけると割り込まれるという話も聞きます。順番を守り、割り込みをしない行列も日本の誇れる文化の一つなのです。番組では理由として次の2点をあげていました。

①子どものころから学校などで整列することを身に付けさせているからキレイに並べる。

②江戸時代に、いくさでの抜け駆け禁止例が出たことで、社会全般に抜け駆けするのがよくないという風習ができたから順番を守ることができる。

当たり前に行っている行動の原点をさかのぼると、こんなに昔から、そして教育の効果も、受け継がれてきていたのです。日本人のマナーや行動は、歴史や教育に裏打ちされた伝統でもあるのです。

東日本大震災の後でさえ、暴動・略奪などは起こらず、肉親を失った人や家を失った人もいる悲しみの中でも、被災地の人々は、落ち着いて行動し、静かに列をつくって配給を待ちました。この映像が紹介され、多くの外国人を驚嘆させたということです。東日本大震災後にまつわる話を少しだけ紹介します。

- 世界唯一の核被爆国。大戦にも負けた。毎年台風がくる。地震だってくる。津波もくる…。小さい島国だけど、それでもそのたびに日本は立ち上がってきた。
- 4時間の道のりを歩いて帰るときに、「トイレのご利用どうぞ！」と書いたスケッチブックを持って、自宅のお手洗いを開放していた女性がいた。日本って、やはり世界一温かい国だね。
- 大渋滞で1回の青信号で1台しか前に進めない中、譲り合い、穏やかに運転している姿に感動した。交通が完全マヒすることもあったが、10時間の間、お礼以外のクラクションの音を耳にしなかった。日本がますます好きになった
- 避難所で「分け合って食べます」と、4人家族なのに3つしかおにぎりをもらわない人を見た。凍えるほど寒いのに、毛布を譲り合う人を見た。きちんと一列に並んで、順番を守って物資を受け取る姿に、日本人の誇りを見た。
- 子どもがお菓子を持ってレジに並んでいたけれど、順番が近くなり、レジを見て考え込み、レジ横にあった募金箱にお金を入れて、お菓子を棚に戻して出て行った。店員さんがその子どもの背中に向けてかけた、ありがとうございます、という声が震えていた。
- 物が散乱しているスーパーで、落ちているものを律義に拾い、そして列に黙って並んでお金を払って買い物をする。運転を再開した電車、混んでいるのに妊婦に席を譲るお年寄り…。この光景を見て外国人は絶句をしたとのことだ。
- 朝からスーパーに並んだ。私の前には母親と泣きべそをかいた子どもがいた。子どもは大事そうに壊れたDSを持っている、時折ボタンを押しては反応が無いことに落胆している様子だった。母親との会話を聞くと、どうやらそのDSはサンタから貰ったらしかった。子どもがすごく悲しそうで、ゲームができないことよりサンタが怒ってないかを気にしていた。周りも私も何とも言えない気持ちになっていたところ、1人の中学生くらいの男の子が子どもに近づいて、自分のDSを渡した。しかも「サンタさんから頼まれた」と言って、壊れたその子のDSと自分のDSを交換した。子どもは大喜びだった。母親は涙ぐみながら頭を下げていた。余談だが、この様子を見ていたらいいおばちゃんたちが、その中学生に自分達が買った食料を分けていた。



これらの他にも【礼儀正しい】【街がきれい】【トイレがきれいである衛生的】【商店などのサービスがいい】【チップの文化がない】【レストランのメニューの写真と実物が同じ】【レジで待たされない】【食べ物新鮮…生魚や生卵が食べられる】【自動販売機が多く種類も豊富】なども日本のよさとして話題になります。日本人にとっては当たり前を感じるのですが、日本の誇れることなのです。紙面の都合で、紹介しきれません。機会があったら、また紹介させていただきます。家庭でも子どもに話をしてあげてください。